

“カプセル内視鏡小腸検査”とは

朝霞台中央総合病院
副院長 吉野守彦

カプセル内視鏡検査って何？

カプセル内視鏡検査とは

カメラを内蔵した長さ26mm×幅11mmのカプセルをビタミン剤のように口から飲み込むだけの小腸の内視鏡検査です。カプセルは消化管を通過しながら画像を撮影し、記録装置に転送します。医師はこの画像をもとに小腸の診断を行います。

※非常に稀ですが、カプセルが消化管内の病変により、体内に滞留する報告があります。

カプセル内視鏡検査の特徴

これまでの胃腸の検査とくらべ、カプセルを飲み込むだけの非常に苦痛の少ない検査です。検査中は日常生活ができます。検査開始2時間後からお水、4時間後から軽い食事を取る事ができます。

当院での結果

【症例】
患者さま：70歳女性
消炎鎮痛剤内服中の原因不明の消化管出血
【結果】
潰瘍・びらんが認められる。その後、内服中止により症状が消失しました。



出血



びらん・潰瘍が散在



発赤を伴う潰瘍



← 実物と同じ大きさです。

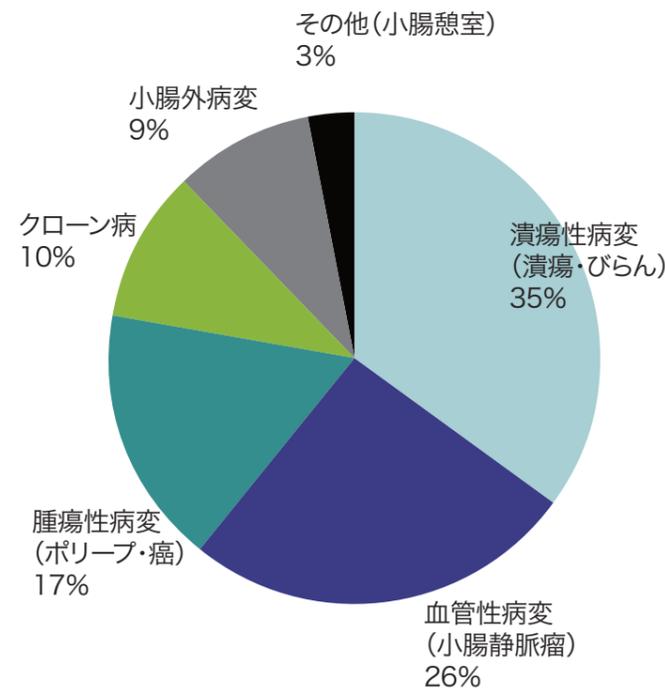
正確な診断に役立ちます

小腸は、全長が6m～7mと長く、全消化管の75%を占める、体内で最も長い臓器であるのに、これまで良い検査法がなくて困っていました。カプセル内視鏡は従来ほとんど唯一の方法だったバリウムによる造影検査よりはるかに病変発見能力が高いことが示されています。しかも飲むだけで苦痛がない検査です。この点が画期的です。

対象の患者さまは、例えば便に出血があり、上部及び下部消化管検査(内視鏡検査含む)を施行して病変がなく原因不明の場合、カプセル内視鏡検査の有力な候補になります。

※ただし、胃カメラや大腸カメラの代わりになるものではありません。検査が必要かどうかは担当医が決定し、ご本人のご希望だけで検査を実施することはできませんのでご注意ください。

カプセル内視鏡により確定診断がついた疾患例



～カプセル内視鏡検査の流れとは～

検査前日

前処置は、前日の夕食後(22時以降)の絶食のみです。

検査開始

朝アンテナを体に取付け、記録装置をベルトで腹に付けます。そしてカプセル内視鏡を適量の水で飲み込み、その後は職場に、ご家庭にお戻りいただけます。

検査終了

およそ8時間後、病院に戻り、アンテナと記録装置を取り外します。カプセルは排便時に、体外に排出されます。